

桂島仮設住宅で、健康相談、マッサージ、餃子・写真の提供

5/26 塩釜市桂島仮設住宅



健康相談にのる本郷 舞依医師



体育館での食事風景



マッサージの様子



写真を撮ってすぐに家族のもとへ

5月26日、塩釜市の桂島仮設住宅（25世帯）で、有志による被災者の支援活動が行われました。

この日は好天に恵まれ、桂島に向かう船上では参加者の自己紹介が行われました。しばし、やわらかい海風に吹かれ、何もなかったかのような塩釜の市街やつぎつぎとせまる島を眺める事ができました。

支援内容は蜂屋食品さんチームによる餃子とおにぎり、飲物の提供。家族などの写真を撮ってその場で額に入れてプレゼントする写真チーム。藤原大医師、本郷舞依医師、佐藤美希医師等によるよろず相談チーム。群馬民医連からのリハ・マッサージチーム。そしてチラシや食事配布の宣伝チームと総勢36人が参加しました。

蜂屋食品さんの餃子は、皮がやわらかくモチモチしていてとても美味しいと好評で100食提供されました。写真チームには東京大田病院から諏佐史枝さんも参加して、食事している間に写真を届けていました。よろず相談では子どもさんから高齢者の方まで多くの方が訪れていました。リハ・マッサージチームには、とても気持ち良かったと2回もマッサージを受ける人がいました。

今回の取組みを企画した大槻真由美さんは、「区長さんとお話しをして、仮設にお住まいのみなさんの健康に関するニーズが高く、これからもこのような機会をつくっていきたい」と話していました。



ボランティアに参加されたみなさん（5月26日 桂島の桟橋で）